

平成30年度 社会福祉法人べっぷ優ゆう 事業計画書

事業期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

1. 法人の基本理念

- (1) 「働く」ということを人間としての基本的な営みととらえ、生きていく上での必要な権利であると考えます。
- (2) 障害のある仲間たちが、自らの意志で作業や活動に生き生きととりくむことができるよう合理的配慮に沿った支援を行います。
- (3) 仲間、スタッフが共感し、学び合い、信頼関係を築いていける場づくりをめざします。
- (4) 仕事や活動を通して人として豊かに生きていけるよう支援します。
- (5) 誰もが住み慣れた地域で暮らしていける社会をめざします。

2. 年度事業方針

I. [法人をめぐる状況]

- ◇ 別府市で、「ともに生きる条例」ができて今年で4年目を迎えます。昨年は大分県条例もできる中で、障がいのある人への理解の輪を広げていこうという声が少しずつ広がりを見せています。
- ◇ しかし、その反面、障がい者を取り巻く国の施策はよい方向に向かっているとは言えません。2月6日に厚労省が打ち出した、障害福祉の報酬改定では、全般的な報酬の引き下げを行いながら、B型作業所を「工賃の支給実績」によって7段階に分け、高い作業所ほど報酬を上げるといった計画を打ち出してきました。
作業所の評価を、その支援内容ではなく、「工賃」のみの要素で行おうとするこの方法では、支援内容はおろそかになっても工賃さえ上げればよいという風潮を生み出しかねません。
- ◇ 一方、べっぷ優ゆうでは、なかまが安心して地域での暮らしを送っていく為の事業の一つとして、グループホームの設立に取り組んできました。
重度の障がいがある人も地域での自立生活ができるという点では、別府市で初めての施設であり、グループホームでのショートステイ（2室）も初めての併設という事で、「親亡き後の問題」の解決策の一つとして注目を集めています。
- ◇ しかし、重度障がいのある人たちのグループホームへの施策はとても十分なものとは言えず、財政的な面での負担は避けられません。
- ◇ さらに、放課後等児童ディで報酬単価の大幅な引き下げもあり、来年度の財政見通しは、これまでになく厳しいものとなっています。
- ◇ このような厳しい情勢の中でも、わたしたちは、障がいのある仲間たちの生活や権利を後退させるわけにはいきません。
今年度は、グループホーム事業やショートステイ事業の安定的な運営が大きな課題となります。
- ◇ 加えて、地域生活支援を更に前進させていく為に、年度内での「ヘルパーステーション」の設立を目指して準備を進めていきます。
- ◇ 仲間支援の面においては、「生産販売の増加」と「仲間支援の充実」を一体的に進めていくと

いう難しい課題に向き合わなければなりません。

べっぴん優ゆうは、これまで目の前のなかまの問題に対して、親身になって向き合ってきたお蔭で仲間やご家族からの信頼は厚いものがあります。一人ひとりの職員が前を向いてこの仕事に取

- ◇ これまで以上の多くの課題が提起される中で、一人一人の職員が事業の目的を共有し、自らの課題として取り組んでいくことなしには、これらの課題を進めていくことはできません。
- ◇ なかまが主体のべっぴん優ゆうを創っていくためには、まず職員集団が主体者となって、目の前の課題にとりくんでいくことが求められています。

II. [具体的な取り組み(今年度の事業課題)]

1. 事業所としての重点課題

- (1) 「優ゆうホーム竹の内」の運営の安定化を図り、ショートステイ事業を活性化させる中で、地域のニーズに応えていきます
- (2) グループホーム、ショートステイ事業と合わせ、障がいのある人の地域生活を支援する「ヘルパーステーション」の設立を目指します(年度内)

2. 国や行政、地域社会への働きかけ

- (1) 朝市やきずなコンサートなどを継続していく中で、地域とのつながりを深めながら、障がい者問題への理解を広げていきます
- (2) 福祉フォーラムへの参加を通し、地域の活動団体との交流を図るとともに、「共に生きる条例」を地域の中で生かしていく取り組みをおこないます
- (3) きょうされんへの参加を通し、障がい者福祉向上についての国や自治体への働きかけを行うとともに、大分支部を中心とした、事業所間の研修面での交流をおこないます。
- (4) 職員会議などの中で、行政の動きや福祉情勢などを勉強する時間をつくります。

3. 事故防止の取り組み

- (1) 「安全な介助のための手引き」の内容を職員全員が理解し、事故を未然に防ぐことができるような支援を行っていきます。
- (2) 「ヒヤリハット」の記入を促進するとともに、事例や改善策を職員会議などの場で共有していきます。
- (3) 災害時対応マニュアルを作成し、避難訓練などを行っていく中で、様々な災害に対処できる行動力を育てます。(体験の積み重ねによる判断力と行動力の育成)

4. 職員の専門性及び資質向上

- (1) 職員全員が、意欲的に外部研修に参加し、なかま支援の力を高めていくことを目指します。(積極的な研修参加の提案を歓迎します。)
- (2) 一人一人の職員が主体的に参加できるような所内研修を行っていきます。
- (3) それぞれの会議の目的を明確にするとともに、発言することで全員が参加する会議、互いに確認した行動計画が実行されるような会議を目指します。

- (4) 職員集団としての実践の積み重ねを大切に、目的を共有した仲間支援を行っていきます。
- (5) 年2回の職員面談で、一人一人の役割や責任を明確にする中で、自分がやるべきことを理解し、やってきたことを自覚できるようにします。

5. 作業や活動を通しての仲間支援

- (1) 「なかまが主人公」の支援の徹底を図ります。
- (2) なかまの変化（成長）に気付く力を育て、目的意識を持ってなかまと向かい合う支援を行います。
- (3) 集団を意識した支援を行っていきます。

6. 生産性・売上の向上、工賃アップ

- (1) 「工賃向上三ヶ年計画」の策定に向け、現場から計画を作り上げていくような取り組みをおこなっていきます。
- (2) 当面する課題として、クッキー部門の生産量のアップに向けた、作業の見直しや、機器の導入などに対する検討をおこなっていきます。
- (3) 「営業」の取り組みを強化する中で、販路の拡大を行っていきます。

3. 事業別運営計画

(1) 日中活動事業：就労継続支援B型、生活介護（多機能作業所）

定員	就継B型	20名	生活介護	6名
実利用者		32名		10名
職員		7名		5名
日平均利用数		23.7名		5.5名
開所日数	265日	送迎	毎日実施	
提供サービス	作業、文化・余暇活動、スポーツレクリエーション、就労支援等			

(2) 日中活動事業：放課後等デイサービス

定員	10名	職員	5名	
実利用者	16名	開所日数	241日	うち学校休業 42日
日平均利用数	9.1名	送迎	毎日実施	
提供サービス	集団生活適応訓練、創作的活動、レクリエーション、スポーツなど			

(3) 相談支援事業

相談支援専門員	業務従事者	現利用者数	期中利用数
1名		77名	現状維持
提供サービス	・地域で生活する障害児者及び家族の相談に応じ、各種サービスの利用援助調整など地域生活に必要な支援を行う。 ・関係機関との連携を進め障害児者の自立と円滑な地域生活の支援を進める。 ・グループホーム開設に備えた地域定着支援の実施計画を具体化する。		

4. 役員

(1) 理事・監事

- ①定数 理事6名 監事2名
②任期 平成31年6月の定時評議員会の終結の時まで
③理事長 田中康子
④理事 瓜生田洋一 徳田宣子 出田陽一郎 小野恵子 永松温子
⑤監事 小串光正 都留慎治

(2) 評議員

- ①定数 7名
②任期 平成33年6月31日の定時評議員会の終結の時まで
③評議員 渡邊暁子 篠藤明德 中川奈緒美 大久保多津子
佐藤宣男 藤内 浩 豊田晴子

5. 理事会・評議員会開催計画

(1) 理事会

- 第1回 5月下旬 平成29年度決算報告及び事業実績報告、社会福祉充実計画に関する件他
第2回 11月下旬 平成30年度予算の補正及び事業計画の変更に関する件他
第3回 3月下旬 平成31年度事業計画、予算に関する件他

(2) 評議員会

- 第1回 6月下旬 平成29年度決算報告及び事業実績報告、社会福祉充実計画に関する承認
第2回 11月下旬 平成30年度予算の補正及び事業計画の変更に関する承認
第3回 3月下旬 平成31年度事業計画、予算に関する承認

6. 事業運営組織

- ・別紙、「H30年度組織機構」を参照

7. 研修計画

- ・法人内研修 月1回 内かまど作業所、竹の内事業所、ホーム毎に職員全員を対象として実施
- ・きょうされん九州ブロック、支部研修会（職員交流）
- ・部外研修（随時）年間職員1人1回を目標に派遣
（例）相談支援初任者研修（サービス管理責任者等の任用講習）、きょうされん安居楽業ゼミナール、福祉医療機構経営セミナーなど

8. 設備投資、大規模な改修・購入の計画

（1）土地建物取得

- ・なし

（2）建物・設備関係

- ・優ゆうホーム竹の内：木造2階建、延床面積474.16㎡保存登記
- ・同上設備：重度者対応入浴装置、リフト3基（償却資産）…3月6日設置、4月末支払（金額8,402,240円）

（3）固定資産物品購入等

- ・具体的な計画はない。

（4）車両関係

- ・グループホーム事業 送迎等連絡車両（日本財団、JKF等）申請予定

9. 職員採用計画

- ・4月新規採用…グループホーム配属職員
 - 〔 4/1付け 板井久子（正職員）
 - 〔 時期未定 世話人女性1名（食事担当、短時間パート）
- ・ヘルパーステーション従事者…準備検討の後2名程度（パート）

10. 資金計画

（1）施設整備補助金の受入

- ・なし

（2）借入金（残高）…施設整備に伴う借入金

①借入先：独立行政法人福祉医療機構(WAM)

借入金額：30,000千円 期首残高：30,000千円

償還等条件：期間20年、利率0.55%、据え置き10カ月(H30.5より元本返済)

年間返済額(元利)1,700千円(元本1,548千円)

償還原資：全事業運営差益

②借入先：株式会社日本政策金融公庫

借入金額：12,000千円 期首残高：11,745千円

償還等条件：期間7年、利率0.81%、H30.2より返済

年間返済額(元利)1,850千円(元本1,740千円)

償還原資：全事業運営差益

11. その他特記事項

(1) 固定資産税課税

- ・竹の内土地：グループホーム事業に利用できない2筆(竹ノ内2115番24 262㎡及び2115番25 68㎡)の固定資産税(H30.2.28市より連絡) 金額不明(50~60,000円程度を想定)